

エントリー学校名：島根県立石見養護学校

活動名：キャリア教育リニューアル～キャリア・パスポートの導入と活用

解決すべき課題：

- 1 本校におけるキャリア教育の推進は進路指導部の業務に位置づけられており、職場体験・現場実習等の体験的な学習や出口指導としての進路指導がキャリア教育の中心と見なされる現状が未だある。
- 2 児童生徒自身が“なりたい自分”の姿を具体的にイメージできなかつたり、学校教育目標や教師の“めざす児童生徒像”との乖離があつたりして、児童生徒自身がどこに向かって何を努力すれば良いのか、という意識をもちにくい。

目標・方針：

教師が学校教育目標や“めざす児童生徒像”を児童生徒と共有し、児童生徒自身が“なりたい自分”を思い描きながら目標設定と振り返りをするツールとしてキャリア・パスポートを導入し、キャリア教育を推進する。

活動内容：

- 1 キャリア教育やキャリア・パスポートに関する教職員研修の実施
 - ①キャリア教育やキャリア・パスポート導入の意義を、昨年度の実践に関連づけて説明、確認する。
 - ②外部機関主催のキャリア・パスポート研修に参加し、その内容を職員会議や庁内メール等で伝達する。
- 2 キャリア・パスポートのひな形作成と導入
 - ①教務部と共にキャリア・パスポートの導入を進め、それぞれの強みを活かしながら取り組む。(資料1)
 - ②「学びの見直しプロジェクト」作成の「学びの図」(資料2)を活用してワークシートのひな形を作成し、様々な学習場面での活用を促す。(資料3)

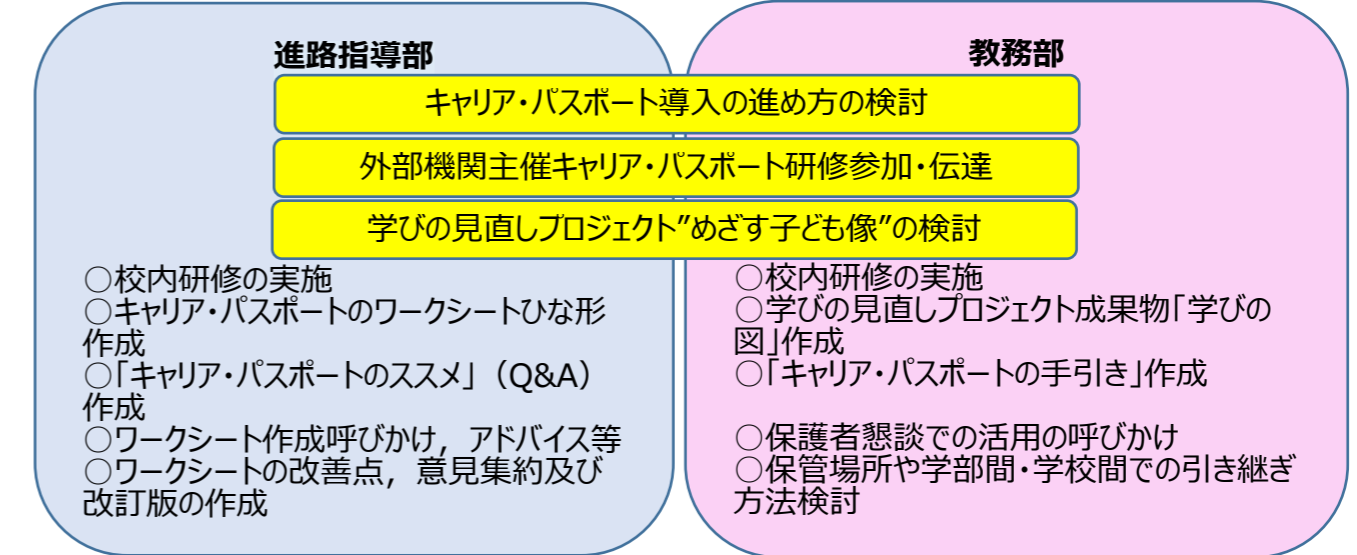
活動の成果：

- 1 教職員研修や職員会議等の大きな集まりでは取組の大枠を語り、学部会、分掌部会等の小さな集まりでは具体的な手立ての説明を草の根運動的に続けた。キャリア・パスポートを要として日々の学習がつながり、将来につながる、という意識付けになり、その作成を通して本校のキャリア教育を捉え直すことができた。
- 2 基礎資料となるワークシートの活用状況等の担任への聴き取りでは、以下の感想があつた。
 - ・1年後、または卒業後の“なりたい自分”や“つきたい力”等を児童生徒も教師も可視化でき、それらを意識した目標設定と振り返りがしやすかつた。
 - ・振り返りで出た課題を次の目標にできるので、児童生徒自身が取り組むべき課題に気付きやすかつた。
 - ・子ども自身が1年後の自分を想像して、「今これを頑張らなければ！」と意識できるようになつた。

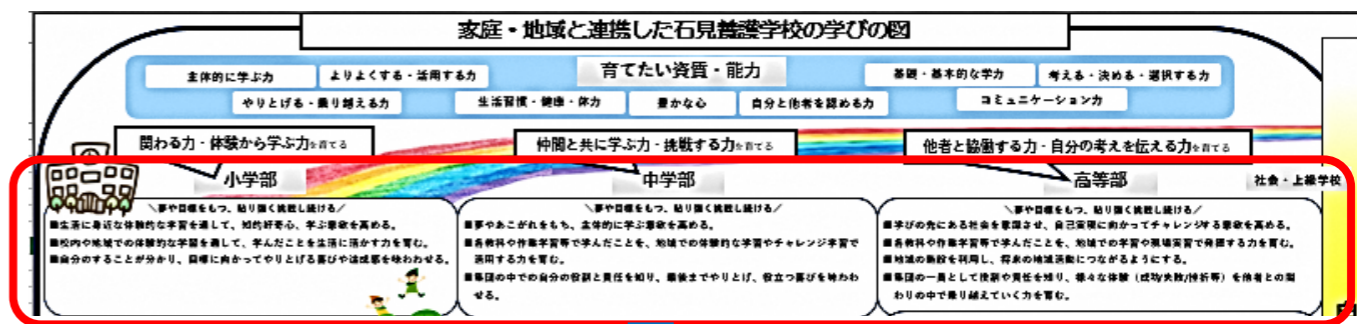
アピールポイント(アイデアや工夫)：

- 1 あるもの活用～これまでの延長線上にあるキャリア・パスポート～
 - ①職員会議や教職員研修の“ついで”や庁内メールを活用し、多く情報発信の機会を得ることができた。
 - ②昨年度までの取組を活かしつつキャリア教育の視点で意味づけをしながらスムーズに導入することができた。
- 2 つながり活用～助け合い、高め合う関係～
 - ①教務部と共にキャリア・パスポートの導入を進めたことで、互いの強みを活かしながら取り組むことができた。
 - ②ワークシートとその活用方法を学級や学部を越えて共有し、取組にかかる労力を抑えることができた。

(資料1) キャリア教育リニューアルの進め方 ※ 部分は教務部と共同して進める。



(資料2) 「学びの見直しプロジェクト」作成の「学びの図」



(資料3) 基礎資料作成の流れ

